

2026年3月期第1四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2026年3月期第1四半期決算説明資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=WGweW5ZBLaM%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=WGweW5ZBLaM%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=WGweW5ZBLaM%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

■ご説明

2025年度第1四半期決算

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



- ・第1四半期前年同期比では、MicroThin™やAIサーバー向けの電解銅箔VSPなど機能材料セグメントの主要製品の販売量は増加したものの、為替の円高、金属価格が下回って推移したことおよびそれに伴う在庫要因の悪化等により減収減益となった。当期純利益は、三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失計上などにより悪化した。
- ・通期予想は、MicroThin™やAIサーバー向けの電解銅箔VSP、排ガス浄化触媒などの機能材料セグメントの主要製品の販売量の増加を織り込み、前回予想比で増収増益を見込む。なお、三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失は前回予想から変更なし。

(単位: 億円)

	第1四半期実績			通期予想		
	2025 実績	2024 実績	増減 (25-24)	2025 今回予想	2025 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	1,690	1,699	-8 -0.5%	6,650	6,500	150 2.3%
営業利益	114	235	-121 -51.3%	460	420	40 9.5%
経常利益	100	262	-162 -61.7%	440	410	30 7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-60	221	-281 -	170	140	30 21.4%

決算説明資料 1 ページをご覧ください。

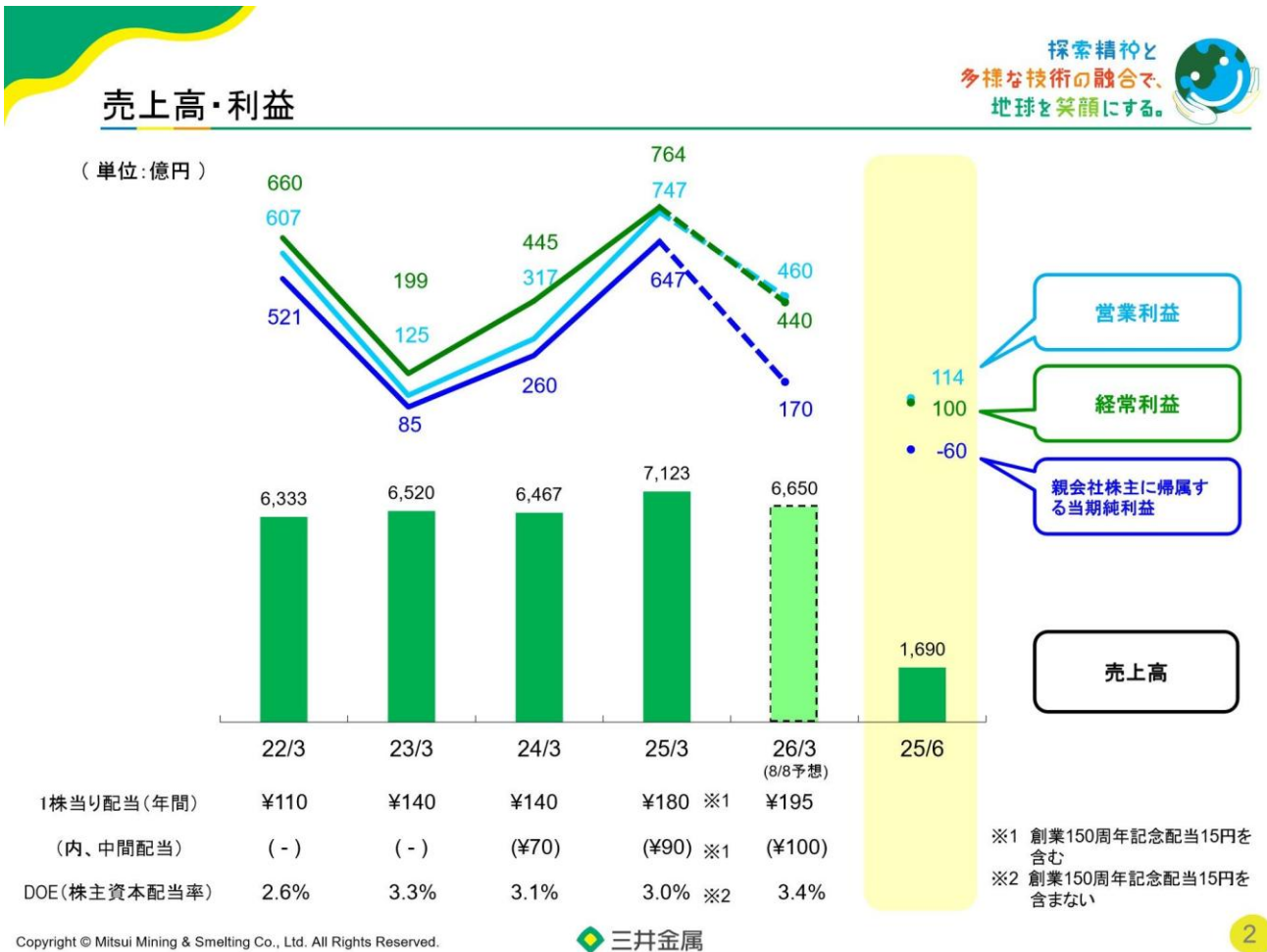
・2026年3月期第1四半期の売上高は1,690億円、営業利益は114億円、経常利益は100億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は60億円の損失となりました。前年同期比較では、MicroThin™やAIサーバー向け電解銅箔のVSP™など、機能材料セグメントの主要製品の販売量は増加したものの、為替の円高、および株式譲渡した連結子会社が複数あることなどにより、当社グループ全体の売上高は、ほぼ前期並みとなりました。

・利益につきましては、売上高でご説明した要因に加え、金属の在庫要因で前期は大きく好転していたものが、当期では悪化に転じたこと、営業外損益で為替差損が生じたことなどにより、営業利益は前年同期に比べ121億円減少、経常利益も162億円減少となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、経常利益の減少に加え、三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失計上などにより、前年同期に比べ281億円

の減少となりました。なお、三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失見込み額は、5月13日にお知らせした金額と変更ございません。

・2026年3月期の通期予想につきましては、第1四半期の実績を反映し、第2四半期以降の事業動向などを踏まえて見直した結果、売上高1,650億円、営業利益460億円、経常利益440億円、当期純利益170億円と、前回5月13日に開示しました通期予想を上回る見込みです。

・第2四半期以降の価格前提につきましては、LME 亜鉛価格2,800ドル/トン、LME 鉛価格2,000ドル/トン、LME 銅価格445セント/ポンド、為替は145円としています。



資料 2 ページをご覧ください。

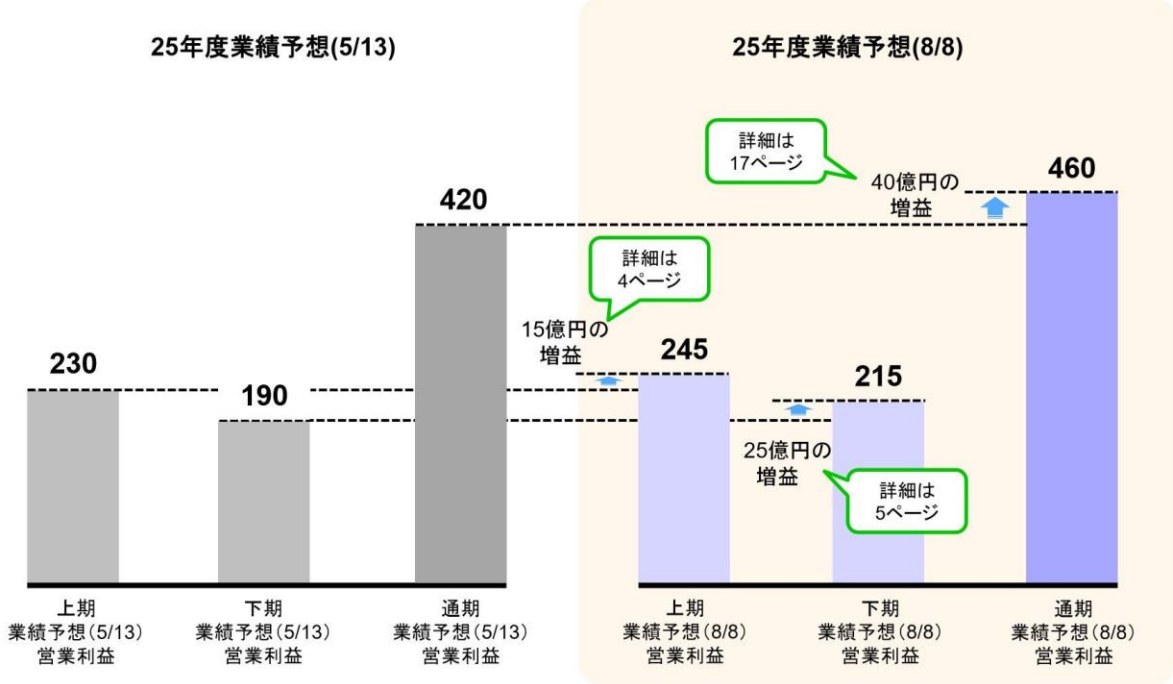
・売上と利益の推移を示したグラフを載せております。グラフの下のほうに記載しております、配当につきましては、前回5月13日に開示しました中間配当予想100円、期末配当予想95円、合わせて年間配当予想195円から、変更はございません。



25年度営業利益見込

25年度営業利益は、上期は前回業績予想比で15億円の増益を見込む
通期は前回業績予想比で40億円の増益を見込む

(単位:億円)



資料 3 ページをご覧ください。

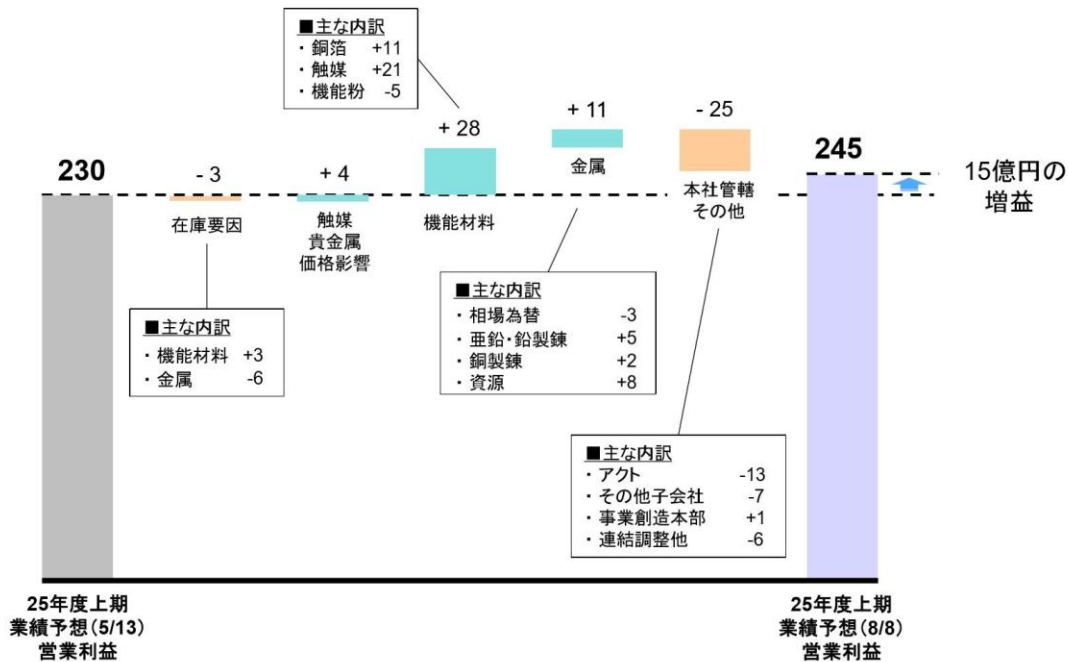
・2025年度の営業利益につきまして、上期は前回比で15億円増益の245億円、下期は25億円増益の215億円、通期では40億円増益の460億円を見込んでおります。



25年度上期営業利益見込(対前回業績予想)

25年度上期営業利益は前回業績予想比で15億円の増益を見込む

(単位:億円)



上期営業利益の前回業績予想との差異についてご説明いたします。資料4ページをご覧ください。

・営業利益では15億円の増益を見込んでおります。機能材料、金属ともに実力損益ベースで増益となりますが、本社管轄その他で減益となっております。

各事業セグメントの増減要因についてご説明いたします。

・機能材料セグメントでは、MicroThin™、および電解銅箔VSP™の販売量増加、および排ガス浄化触媒が二輪向け・四輪向けとも販売量が増加見込みなど、主要製品の販売量増加などにより、28億円の増益を見込んでおります。

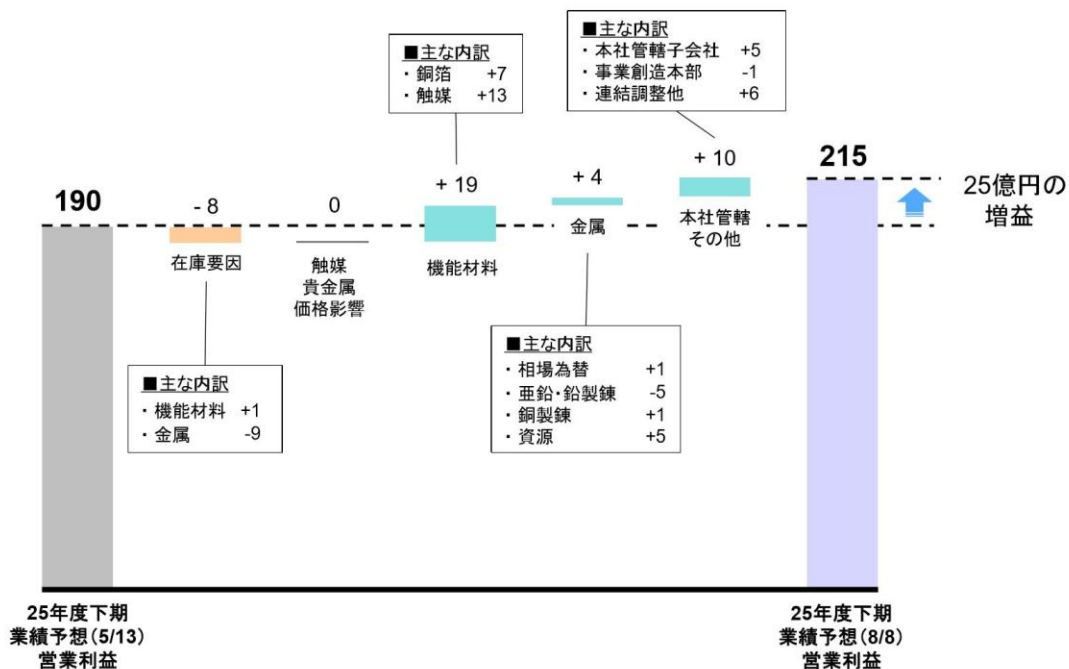
・金属セグメントでは、主に資源関係、ペルーにあります当社亜鉛鉱山周辺の探鉱の遅れなどがあり、合わせて11億円の増益を見込んでおります。

・本社管轄その他では、25億円の減益であり、三井金属アクトの中国顧客向け減販およびコスト削減遅れなどにより13億円の減益、その他子会社で合わせて7億円の減益などが主な要因です。

25年度下期営業利益見込(対前回業績予想)

25年度下期営業利益は前回業績予想比で25億円の増益を見込む

(単位:億円)



下期営業利益の前回業績予想との差異についてご説明いたします。資料 5 ページをご覧ください。

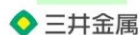
・営業利益では 25 億円の増益を見込んでおります。なお、価格前提は亜鉛価格 2,800ドル/トン、為替は 145 円と、前回予想と同様です。主要因は、機能材料セグメントの電解銅箔 VSP™、および排ガス浄化触媒の販売量増加による好転により、このセグメントで 19 億円の増益を見込んでおります。

営業外・特別損益

(単位:億円)

	第1四半期			上期			通期		
	2025 実績	2024 実績	増減 (25-24)	2025 今回予想	2024 実績	増減 (25-24)	2025 今回予想	2024 実績	増減 (25-24)
金利収支	-5	-6	1	-10	-11	1	-19	-19	0
受取配当金	5	5	0	5	5	0	5	6	-1
持分法投資損益	8	15	-8	10	28	-19	20	46	-26
為替差損益	-23	12	-34	-23	-31	8	-23	-24	2
その他	0	1	-1	3	5	-2	-4	8	-12
営業外損益 計	-14	27	-41	-15	-4	-11	-20	17	-37
固定資産除売却	-3	-3	1	-6	-9	3	-27	-29	1
減損損失	0	0	0	0	-11	11	0	-28	28
有価証券売却損益	0	1	-1	0	94	-94	0	94	-94
関係会社株式売却損益	21	20	1	21	22	-1	-176	22	-198
貸倒引当金繰入額	-1	-2	2	-1	0	0	-1	-5	5
その他引当金繰入額	-197	0	-197	-197	0	-197	0	0	0
その他	0	0	0	-5	-2	-3	0	-10	9
特別損益 計	-179	16	-195	-188	93	-281	-204	44	-248

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



10

その他の項目についてご説明いたします。資料 10 ページの営業外・特別損益をご覧ください。

•左下に記載のとおり、三井金属アクトの株式譲渡に伴う損失 197 億円を、その他引当金繰入額として、第 1 四半期に計上しております。実際の株式譲渡日は、2025 年 10 月から 12 月を予定しております。

セグメントの業績(1) 機能材料



(単位:億円)

	25/Q1 実績	24Q1 実績	増減 (25-24)	上2025 今回予想	上2024 実績	増減 (25-24)	FY2025 今回予想	FY2024 実績	増減 (25-24)
■売上高	713	610	102	1,470	1,240	230	2,870	2,462	408
■営業利益	129	110	19	250	221	29	455	418	37
■経常利益	105	117	-12	230	197	33	430	403	27
※実力損益	97	104	-7	222	165	57	421	359	62

※実力損益：経常利益から在庫要因・触媒貴金属価格影響を除いたもの

(機能材料製品)	(主な用途)
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> 高密度半導体パッケージ材料 プリント配線基板
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> 二輪車・四輪車排ガス浄化触媒
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド車向けニッケル水素電池 リチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> 各種電子部品
レアマテリアル	 <ul style="list-style-type: none"> ガラス研磨材 各種電子部品
セラミックス	 <ul style="list-style-type: none"> 高温用窯道具、電子部品用窯道具 溶融アルミニウム濾過装置
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> フラットパネルディスプレイ

経常利益の増減説明

[上2024→上2025予想 + 33]
 銅箔 + 59 (MicroThin™・VSP™増販 他)
 薄膜 - 17 (在庫要因悪化 他)
 機能粉、レアマテリアル合計 - 6 (減販 他)

[FY2024→FY2025予想 + 27]
 銅箔 + 87 (MicroThin™・VSP™増販 他)
 触媒 - 11 (減販 他)
 電池材料 - 5 (減販 他)
 薄膜 - 23 (在庫要因悪化 他)
 機能粉、レアマテリアル合計 - 10 (減販 他)

※2025年4月組織改編で機能粉の一部製品をレアマテリアルに移管したため、経常利益を合計して比較している

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



13

セグメントごとの状況についてご説明いたします。最初に機能材料セグメント、資料 13 ページをご覧ください。

・機能材料セグメントでは、特に銅箔事業について 25 年度に入り、MicroThin™、および AI サーバー向け電解銅箔 VSP™が、昨年度以上に実需が旺盛であり、中でも VSP™は、前回予想以上に販売数量増が見込まれております。これにより、対前期比で銅箔事業は上期、通期ともに販売数量増による増益を見込んでおります。排ガス浄化触媒については、対前回予想では二輪向け・四輪向けともに販売量増加を見込んでおりますが、それでも昨年の水準には届いておらず、右下のほうに記載がありますとおり、対前期比の通期予想では、販売量減少による減益を見込んでおります。

・そのような状況を踏まえまして、機能材料セグメントの 25 年度の経常利益は、上期で 230 億円、通期で 430 億円を見込んでおり、いずれも主に銅箔の増販が大きいです。対前期比で上回っております。

セグメントの業績(2) 金属

(単位:億円)

	25/Q1 実績	24Q1 実績	増減 (25-24)	上2025 今回予想	上2024 実績	増減 (25-24)	FY2025 今回予想	FY2024 実績	増減 (25-24)
■売上高	740	732	9	1,580	1,552	28	3,130	3,250	-120
■営業利益	29	179	-150	80	227	-147	140	418	-278
■経常利益	33	195	-162	80	243	-163	135	445	-310
※実力損益	56	122	-66	102	166	-64	169	319	-150

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

経常利益増減分析

	上2024→ 上2025予想	FY2024→ FY2025予想
相場・為替	-14	-31
T/C条件(亜鉛)	-17	-26
棚卸資産在庫要因	-99	-160
持分法損益	-12	-19
エネルギーコスト	20	24
(上記のうち、コークス)	(9)	(7)
その他※	-41	-98
合計	-163	-310

2025年度年間損益感応度(経常損益)

	フルオープン	予約含む
亜鉛(LME)	± 100\$/t	15.8
鉛(LME)	± 100\$/t	2.1
為替	± 1yen/\$	5.1

亜鉛TC条件

FY2024	165 \$/t
FY2025	80 \$/t

※その他の主な内訳

上2024→ 上2025予想	亜鉛製錬操業差 +7、鉛原料代構成差 -13、 銅製錬委託条件差 -11、資源 -22
FY2024→ FY2025予想	亜鉛製錬操業差 -10、鉛操業差 -11、鉛原料代構成差 -24、 銅製錬操業差 -18、銅製錬委託条件差 -23、 銅製錬コスト(大定修+24含む) +23、資源 -36

次に、金属セグメントです。資料 14 ページをご覧ください。

・25年度については、対前期比で亜鉛価格が若干下回り、為替は円高傾向で推移しており、さらにTCの悪化や前期に発生した棚卸資産の在庫要因の好転剥落など外的環境が厳しく、第1四半期、上期、通期全て対前期比で減益となっております。

・しかしながら今年度、通期の実力損益は、上の表の右側にありますとおり実力損益 169 億円と見込んでおり、当社の金属事業は 2030 年に実力ベースで 200 億円を目指していることからおおよそ 150 から 200 億円の事業であるという認識であります。よって今年度が実力に近い数値であり、前期の実力損益 319 億円は、外的環境に恵まれた数値であって、でき過ぎの数値であるという認識であります。

最後に、当社の株価について補足いたします。

・足元、当社株価が 7 月 22 日の 5,300 円ぐらいから上昇を続けておりまして、本日 8 月 8 日の終値は 6,693 円でございます。資料の 1 ページにありますとおり、今回の当期利益の通期予想は 170 億円ですが、三井金属アクトの株式譲渡に伴う一過性の損失 197 億円を除く実力ベース、実態としての当期利益は、法人税を考慮しても、300 億円程度と考えられます。

・その場合、1 株当たりの当期純利益は 520 円程度で、足元株価をベースとした PER は約 13 倍となります。直近の非鉄セクター全体の平均の PER が 13 倍程度ですので、当社株価は急激に上昇しましたが、割高感はないというのが現在の認識でございます。

・今年度から当社は3年間の中期経営計画「25中計」で開示しましたとおり、25中計の最終年度の2027年には経常利益700億円、2030年には経常利益1,000億円に向けた成長戦略を実現していくことで、さらなる株価の上昇、ひいては企業価値の向上に努めてまいります。

■ 質疑応答

【機能材料セグメント】

- Q. MicroThin™について、DDR4からDDR5の変化、スマホの基板の中で採用されている数量等の変化点や注目する動きがあれば教えていただきたい。
- A. MicroThin™の前回予想と今回予想を比べると、HDI向けについては、上期は販売数量増、下期は前回予想並みと見込んでいる。スマホ1台当たりの数量はあまり変化がなく、従来どおりの使われ方をする中で、販売数量が好調に出たと見ている。PKG向けについては、メモリ関係のお客様が足元非常に好調だと考えているが、スマホ向けも好調であり、大きな変化が足元で何か起きているとは見ていない。
- Q. VSP™の数量見通しを上方修正した背景について、生成AIサーバーに使用される銅箔のグレードアップという流れを織り込んでいるのか、さらにそれが続くとなると来年度以降の成長期待も高まっていくのか解説いただきたい。また、下期見通しの確度についても教えていただきたい。
- A. ハイグレードVSP™は強い伸びが継続している状況であり、高周波対応の銅箔に対する需要は非常に旺盛であると認識している。そこに向けて、25年1月の当社事業説明会では開発中と説明した銅箔カテゴリHVLP5のSI3-VSPが、足元では量産に移行し、下期に向けて販売に寄与することを織り込んでいる。よりハイグレードな銅箔に対する需要が非常に強く伸びていく中で、当社はそれに対応できるような体制を整えて、VSP™の販売を伸ばしていく方針である。なお、下期以降はまだ実際に注文が来ているわけではなく顧客からのヒアリングベースとなるが、第1四半期実績や足元の受注状況は非常に強く、下期はさらに伸びを見込んでいる。
- Q. 今期の計画ではハイグレードVSP™が伸びるということだが、今回予想でVSP™の数量がかなり上振れており、期初予想と今回予想を比べてハイグレード品と従来品との比率がどう変わったのか。
- A. 前回予想ではVSP™全体の中でハイグレード品が占める割合を25年度累計で95%ぐらいと見込んでいたが、今回予想では90%を少し下回るぐらいの比率で見えており、ハイグレードではない製品は前回予想ほど減っていない。一方で、ハイグレード品だけを見たときの販売数量は前回予想と比較して増販を見込んでおり、VSP™合計の数量が大きく上振れとなっている。
- Q. VSP™の増加に伴うミックス改善による増益効果について、ハイグレードVSP™の比率が上がることによる改善効果も大きいと思うが、HVLP4とHVLP5の比率がさらに上がると、来年度以降もミックス改善効果が見込めるか教えていただきたい。
- A. 電解銅箔の今後のミックス改善効果の見込みについては、VSP™以外の電解銅箔からの置き換えによりVSP™の販売構成が大きくなることや、当社方針としてより高付加価値なVSP™の販売を拡大していくことなどから、常にミックスの改善効果が出てくると考えている。当社ハイグレード品の販売比率の構成や単価等は非開示としているが、よりハイグレードな製品の需要が高まることで競争環境は当社が有利になると考えている。
- Q. 今回予想のVSP™の対前年度比での増益額を教えていただきたい。
- A. 電解銅箔全体での平均単価の好転で約30億円の増益額を見込んでいる。一方で、電解銅箔は前回予想よりも数量増を見込んでいるため、増販益も利益に貢献する。
- Q. VSP™について、下期の販売見込が600トン/月となっている。2025年1月のニュースリリースでは、台湾で520トン/月、マレーシアで60トン/月、合わせて580トン/月の生産能力への増強という発表だったので、現在は生産能力が上がってきているのかどうか教えていただきたい。また、強い需要に対する今後の生産能力拡充に関して、今年度から来年度も見越してどう考えているのか教えていただきたい。
- A. VSP™の生産能力は2025年4月から580トン/月となっており、生産性向上等々により生産量を少しでも増やすことを常に計画して取り組んでいる。まだ具体的な話はできないが、生産能力の増強投資については前向きに検討しており、決定したらニュースリリース等でお伝えしたいと考えている。VSP™のキ

キャパ増強については、既存設備の改造等により能力の増強を図るため長いリードタイムは必要なく、足元の需要の伸びに対して確実にキャパを準備できる見込みである。先々も見据えると様々な検討が必要になるが、需要に対して着実にキャパを準備する方向で考えている。

- Q. 決算説明資料 P.4、P5 から、銅箔での数量の伸びと利益について VSP™と MicroThin™それぞれ解説いただきたい。
- A. 銅箔の営業利益は前回業績予想に対し上期と下期それぞれで増益となっており、MicroThin™は上期見込で HDI 向けが少し上振れた分が入っているが、下期見込については前回予想から数量は変わっていない。一方で VSP™は上期と下期ともに非常に強い伸びを見込んでおり、その分の影響を織り込んでいる。
- Q. 銅箔の利益について、25 中計で ROIC の目標値を設定し、中計期間からその後さらに利益率を上げていく目標を出していたが、今回の前年比での増益は想定したとおりマージンの改善が寄与しているか。VSP™によるミックス改善効果や昨年の下期に値上げした効果、数量増の効果などについて教えていただきたい。
- A. ご理解の通りマージンは改善している。値上げ効果については、MicroThin™と電解銅箔合計で通期で 30 億円に届かないくらいを見込んでおり、前回業績予想と同じである。VSP™の増販は、電解銅箔全体を平均した販売単価の好転で、前回業績予想より数億円レベルで増益を見込んでいる。固定費も、前回業績予想では前年比悪化で見えていたが、実行ベースではミニマイズすべく努めており、若干悪化幅が小さくなることを今回予想に織り込んでいる。
- Q. 触媒について、販売数量が前年比では少ないものの前回予想より増販となっている背景と、足元は貴金属価格が上昇しており、貴金属価格が上がってきた場合の利益への影響を教えてください。
- A. 二輪触媒については市場が好調なことによる。前回予想ではインドなどの景気好調は少し落ち着くと見えていたが、改めて見直したところ非常に好調であり増販を織り込んだ。四輪触媒については、北米での EV 化進展が減速している影響などから、当社触媒製品の販売量減も緩やかになると見込んでいる。貴金属価格影響は、今回予想では第 1 四半期で上がった価格が第 2 四半期以降は落ち着くと見えており、損益への影響も少しマイナスで織り込んでいるが、貴金属価格が更に上昇すれば利益は伸びる見込みとなる。今回予想の営業利益の好転は、貴金属価格が上昇している影響ではなく、販売数量増加によるものである。
- Q. 機能材料事業の利益の見方について、第 1 四半期の営業利益は実力損益で 121 億円だが、為替差損 23 億円があるため経常利益は 97 億円となっているので、営業利益を見るべきという理解でいいのか。また、上期より下期の利益が少ない見通しになっているが、上期から下期にかけての機能材料事業の実力、営業利益の変化の背景を教えてください。
- A. ご指摘の通り営業外の為替差損益の増減が大きく出ているため、営業利益を見ていただきたい。25 年度上期から下期にかけて機能材セグメントで利益が落ちる要因は、まず MicroThin™の販売量が、前回予想同様に上期から下期にかけて季節性要因で少し落ちるといった減販影響を見込んでいる。また、二輪触媒のインドでの季節性要因として、ディワリ商戦の影響で上期つくり込み、下期一服という減販影響を見込んでいる。
- Q. 機能材料事業の営業外損益の為替差損 23 億円が大きく利益を下げているように見える。為替差の補足をいただきたい。
- A. 銅箔事業の為替差損が大きく、ここにはニュー台湾ドルが USドルに対して高かった影響が含まれる。

【金属セグメント】

- Q. 金属事業について、25 年度上期から下期への利益の増減要因の補足があれば教えてください。
- A. 上期から下期にかけて減益で見ている主な要因として、2026 年 3 月から 4 月にかけて八戸製錬の大定修があるため、そこで亜鉛の操業が落ちると見ている。さらに、修繕費等のコスト関係は年度末に向けて集中する傾向があるため減益を見込んでいる。
- Q. 買鉱条件の影響について上期と下期でどのように見ているか。

A. 亜鉛の TC 条件は上期下期とも同じ 80ドルで見ているが、当社の亜鉛は毎年下期の操業でリサイクル原料の比率が少し高めとなるため、比較すると原料代が下期に好転する。

以上